

ICD-11の公的統計への適用に向けて

2024年1月15日 2023年度日本医学会分科会用語委員会

厚生労働省 政策統括官付参事官付

国際分類情報管理室 川本めぐみ

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems

疾病及び関連保健問題の国際統計分類

- WHO（世界保健機関）の勧告により、国際的に統一した基準で定められた死因及び疾病の分類。現行のICD-10は約14,000項目より構成。
- 1900年（明治33年）に初めて国際会議で承認。日本も同年より導入。
以降、WHOにおいて約10年ごとに改訂が行われ、ICD-10は1990年にWHO総会において承認され、日本では1995年より適用。
- 日本では、ICDに準拠して「疾病、傷害及び死因の統計分類」を統計法に基づく統計基準として定めており、
 - 公的統計（人口動態統計、患者調査、社会医療診療行為別統計等）
 - 医療機関における診療録の管理等における死因・疾病分類として広く利用。

ICD（疾病及び関連保健問題の国際統計分類）とは

世界保健機関（WHO）憲章・分類規則

□ 世界保健機関憲章

第63条 各加盟国は、その国において発表された保健関係の重要な法律、規則、公の報告及び統計をすみやかにこの機関に通報しなければならない。

第64条 各加盟国は、保健総会が決定した方法によって、統計的及び疫学的報告を提出しなければならない。

□ 世界保健機関分類規則

第2条 死亡及び疾病統計を作成する各加盟国は、世界保健総会がその都度採択する国際疾病、傷害及び死因統計分類の現行の改訂に基づいて、これを行うものとする。この分類は、引用に際しては、国際疾病分類と称することができる。

第3条 死亡及び疾病統計の作成公表にあたっては、各加盟国は、分類、符号処理、年齢区分、地域区分、その他の関連した定義及び基準について、世界保健総会が作成した勧告に、できる限り従わなければならない。

第6条 各加盟国は、本機関より依頼された場合、憲章第64条の規定に基づき、この規則に従って作成された統計及び憲章第63条の規定により通報されない統計を提出しなければならない。

<目的>

公的統計の作成及び提供に関し基本となる事項を定めることにより、公的統計の体系的かつ効率的な整備及びその有用性の確保を図り、国民経済の健全な発展及び国民生活の向上に寄与すること

<基本理念>

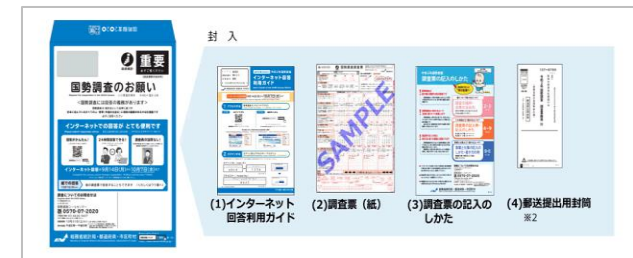
- 体系的に整備すること
- 適切かつ合理的な方法により中立性・信頼性を確保して作成すること
- 広く国民が容易に入手し、効果的に利用できるように提供すること
- 被調査者の秘密を保護すること

<統計法上の「公的統計」とは>

行政機関、地方公共団体又は独立行政法人等が作成する統計

- 基幹統計（国勢統計、国民経済計算等）
- 一般統計（国民健康・栄養調査、受療行動調査等）
- 届出統計（指定地方公共団体又は指定独立行政法人等が統計調査を行い作成）

※公的統計には、行政記録情報から作成される統計（業務統計）及び既存の統計を加工して作成する統計（加工統計）も含まれる。



<「統計基準」とは>

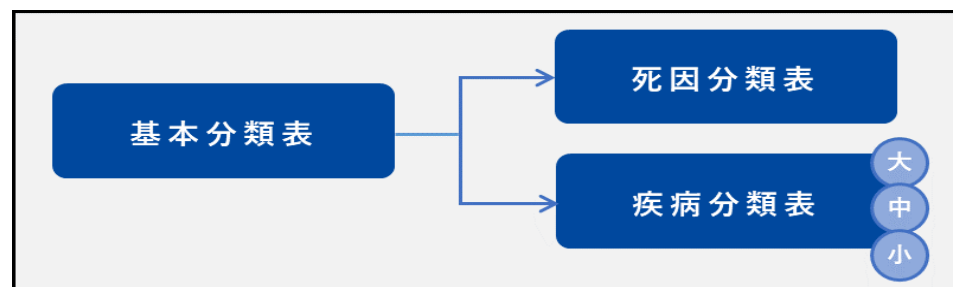
公的統計の作成に際し、その統一性又は総合性を確保するための技術的な基準であり、総務大臣が定めるもの

「疾病、傷害及び死因の統計分類」

<「疾病、傷害及び死因の統計分類」とは>

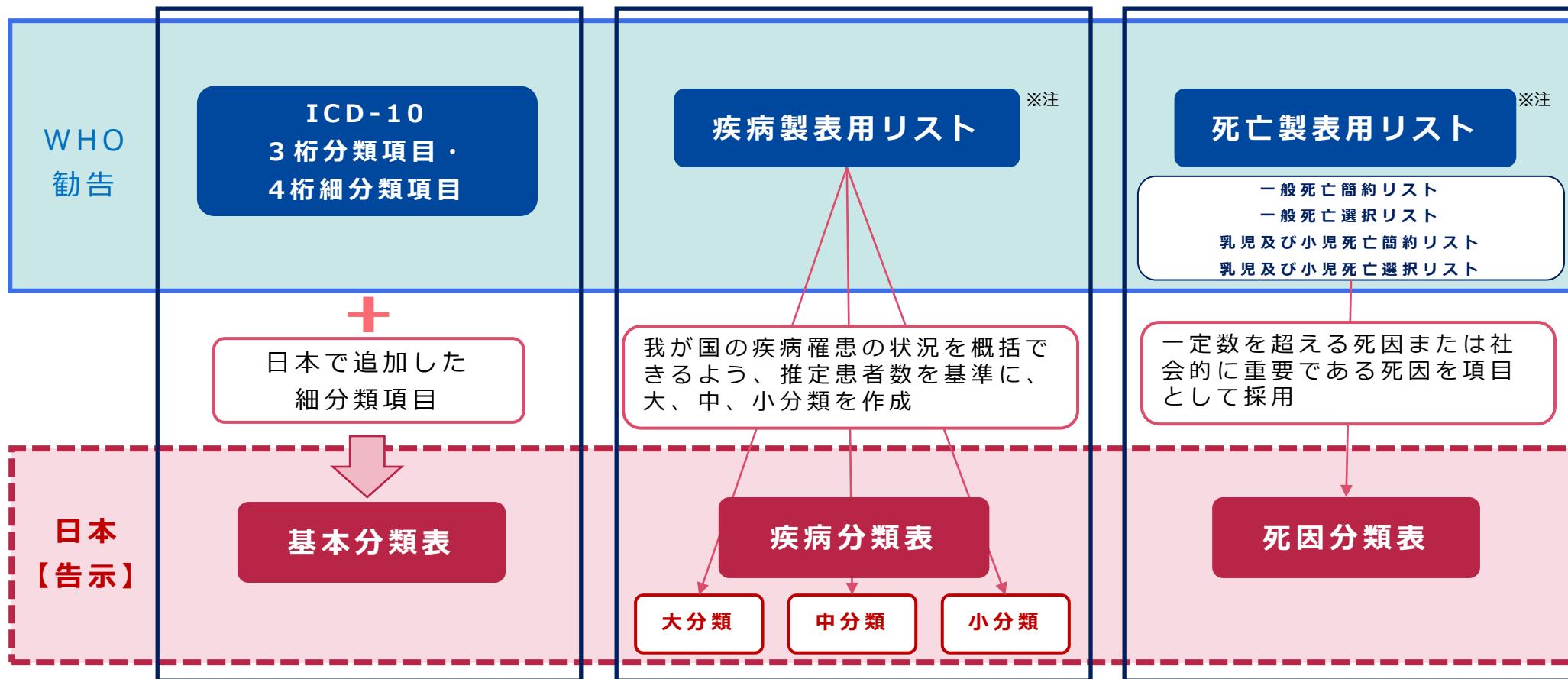
わが国では、統計法に基づく統計基準の一つとして「疾病、傷害及び死因の統計分類」を定め、告示している。

- **目的**
公的統計を疾病、傷害及び死因別に表示する場合において、その統一性又は総合性を確保し、利用の向上を図ること
- **「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」との関係性**
「疾病、傷害及び死因の統計分類」の設定にあたっては、世界保健機関が勧告する「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（ICD）に準拠し、わが国の疾病構造等にも考慮することとされている。
- **構成**
基本分類表、疾病分類表、死因分類表の3分類により構成されている。
- **適用に当たって留意すべき事項**
本分類の適用に当たっては、分類表の各表の分類項目を集約し、又は細分することができる。ただし、分類表の各表の最大分類項目及び異なる最大分類項目に属する下位分類項目は、集約することができない。



我が国で使用している分類表

我が国においては、「疾病、傷害及び死因の統計分類」として**基本分類表**、**疾病分類表**及び**死因分類表**の3種類の分類表が告示されている。疾病分類表と死因分類表は、WHOから提案された特定製表用リストをもとに作成されている。



注) 3桁分類表が詳しくすぎるという場合に使用するよう作られたもの。これまで異なる国々で使用されてきた異なるグループ化によって重要な疾病や疾病群の国際比較ができなくなるがないようにデザインされている。

「疾病、傷害及び死因の統計分類」

○現行の「疾病、傷害及び死因の統計分類」

ICD-10に準拠した2013年版を、統計基準として使用している。



⇒ **ICD-11に準拠**した「**疾病、傷害及び死因の統計分類**」の使用に向けて、告示改正のための準備・調整等を進めている。

スライド15~17 出典、参考

- ・統計法（平成十九年法律第五十三号） 第一章 総則、第二章 公的統計の作成
- ・総務省、「統計法について」. https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/1-1n.htm（2022年5月18日閲覧）
- ・総務省統計局、「統計Today No.163」. <https://www.stat.go.jp/info/today/163.html>（2022年5月18日閲覧）
- ・厚生労働省、「令和4年度版 死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル」. https://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/dl/manual_r04.pdf（2022年5月18日閲覧）
- ・国立印刷局、「インターネット版官報 平成27年2月13日号外」. <https://kanpou.npb.go.jp/old/201502.html>（2022年5月18日閲覧）
- ・総務省告示第三十五号（平成二十七年二月十三日）

「疾病、傷害及び死因の統計分類」を使用している統計・調査の例

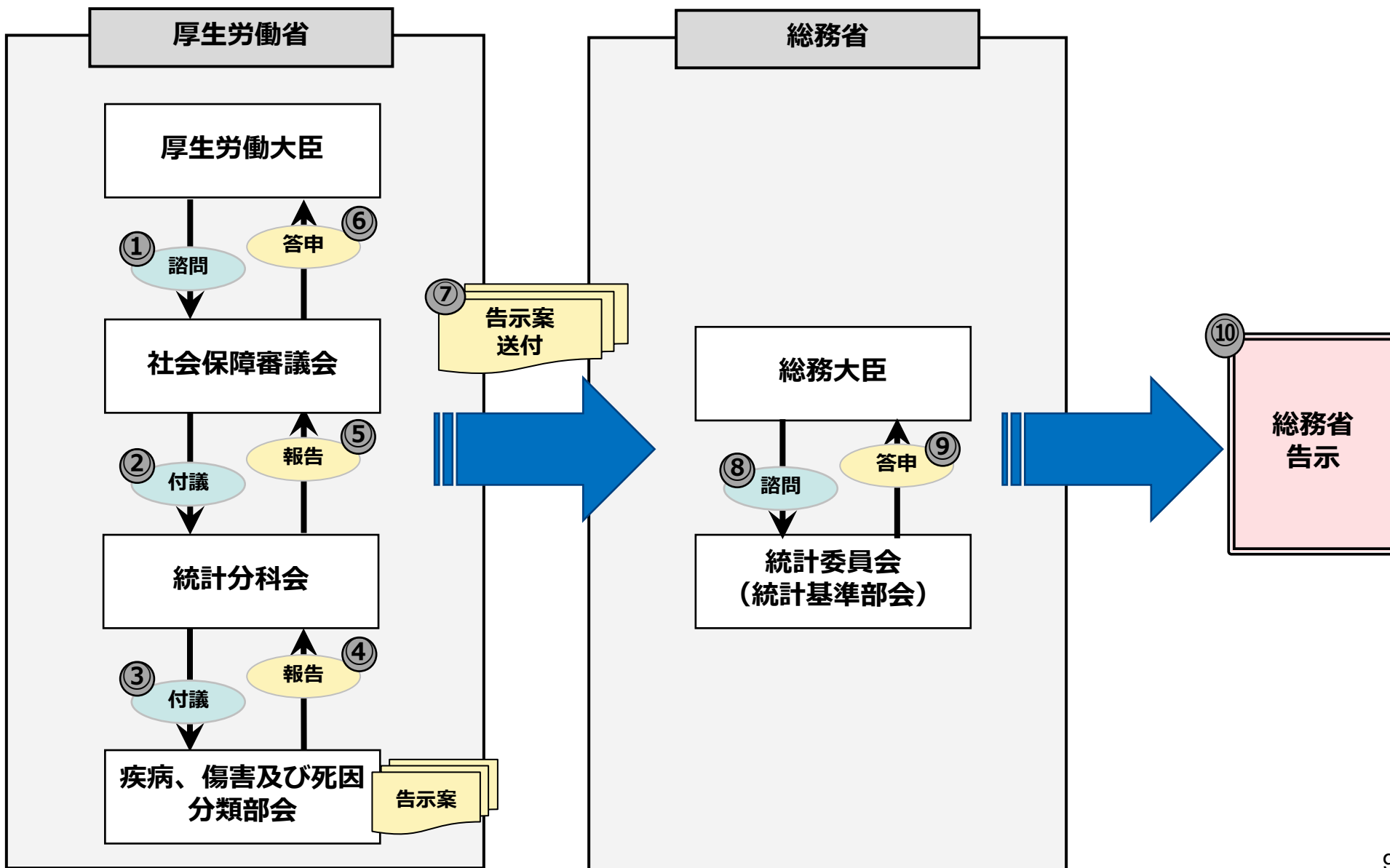
	統計・調査名	所管課室名	使用している告示対象の分類表	統計・調査の概要
基幹統計	人口動態調査	政策統括官 人口動態・保健 社会統計室	・基本分類表 ・死因分類表	戸籍法及び死産の届出に関する規程により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象として実施される調査 ※毎月実施
基幹統計	患者調査	政策統括官 保健統計室	・基本分類表 ・疾病分類表	病院及び診療所を利用する患者について、その属性、入院・来院時の状況及び傷病名等の実態を明らかにし、併せて地域別患者数を推計することにより、医療行政の基礎資料を得ることを目的として実施される調査 ※3年に1回実施
一般統計	受療行動調査	政策統括官 保健統計室	・疾病分類表	全国の医療施設を利用する患者について、受療の状況や受けた医療に対する満足度等を調査することにより、患者の医療に対する認識や行動を明らかにし、今後の医療行政の基礎資料を得ることを目的として実施される調査 ※3年に1回実施
加工統計	国民医療費	保険局 調査課	・疾病分類表	当該年度内の医療機関等における保険診療の対象となり得る傷病の治療に要した費用を推計したもの

※本分類を使用している統計・調査の例（他省）： 矯正統計（法務省）、国家公務員死因調査（人事院）

出典

- 1) 政府統計の総合窓口. 「人口動態調査」. <https://www.e-stat.go.jp/statistics/00450011> (2022年5月18日閲覧)
- 2) 政府統計の総合窓口. 「患者調査」. <https://www.e-stat.go.jp/statistics/00450022> (2022年5月18日閲覧)
- 3) 政府統計の総合窓口. 「受療行動調査」. <https://www.e-stat.go.jp/statistics/00450024> (2022年5月18日閲覧)
- 4) 政府統計の総合窓口. 「国民医療費」. <https://www.e-stat.go.jp/statistics/00450032> (2022年5月18日閲覧)

「疾病、傷害及び死因の統計分類」告示改正の流れ



ICD-11の開発経緯

2007年 ICD-11改訂作業開始をプレス発表（東京）

WHOの改訂組織において、専門分野別部会等の共同議長をはじめ多くの日本の医学の専門家・団体が貢献

2016年 WHO世界保健総会（WHA）へ経過報告

10月 ICD-11改訂会議（東京）
加盟国レビューの実施

2017年

日本医学会、日本歯科医学会、ICD専門委員会、日本WHO国際統計分類協力センター等からの意見をとりまとめ、WHOへ提出

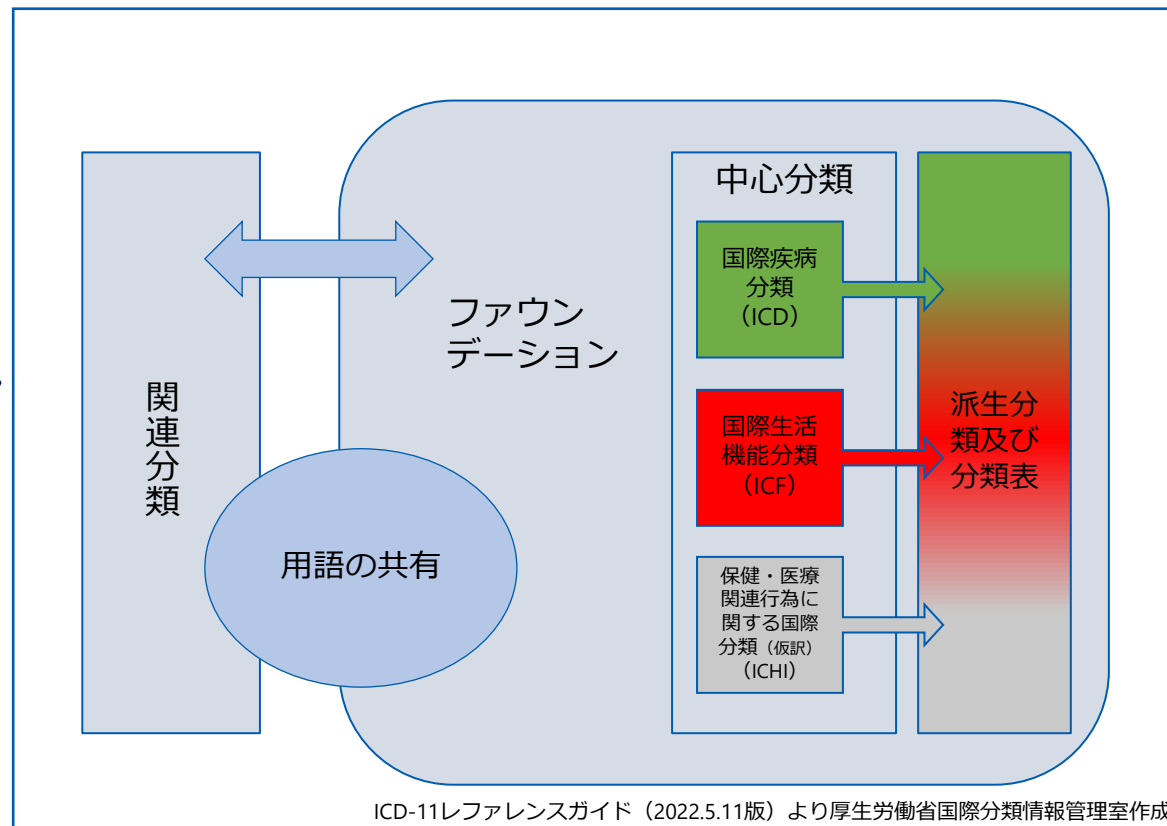
2018年 6月 ICD-11 Version for Implementation 公表

2019年 5月 第72回WHO世界保健総会（WHA）で採択

2022年 1月 ICD-11 発効

The WHO Family of International Classifications (WHO-FIC)

WHO-FIC概念図



- ◆ 中心分類 (Reference Classifications) : 医療制度の主要軸となる分類
- ◆ 派生分類 (Derived Classifications) : 中心分類の構成や項目を使って作られ、中心分類よりも更に詳細な内容が加えられている分類
- ◆ 関連分類 (Related Classifications) : 中心分類を一部参照しているか、その構成の一部においてのみ中心分類と関連している分類

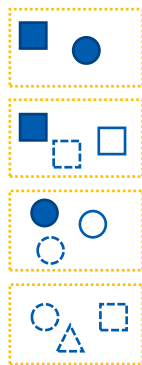
ICD-11の特徴

ICD-11では「ファウンデーション」という概念を新たに導入。ここから目的に応じた分類が作成される。

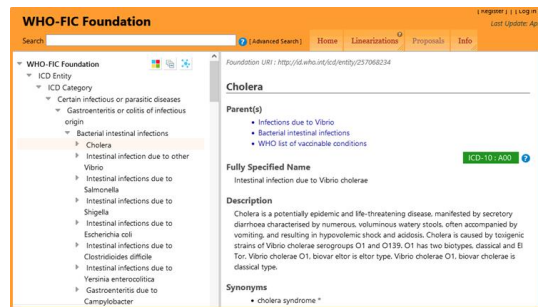
WHO-FIC ファウンデーション

- WHO-FICの基盤である情報リソース。
 - ※ICDのほかICHI（手術・処置等）やICF（生活機能）等を含む
- ICD-11に基づく統計用分類や専門科別の分類などを作成するために必要なすべての情報が収容されている。
- ファウンデーションは多次元的なつくりとなっており、統計分類ではない。

※疾病概念は多面的なものであるため（例：肺癌は、新生物でもあり呼吸器系の疾患でもある）、ファウンデーションでは一つの疾病概念が複数の箇所が存在する可能性がある。



専門科別の分類

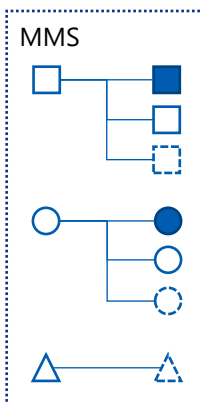


• 約11万5千の用語

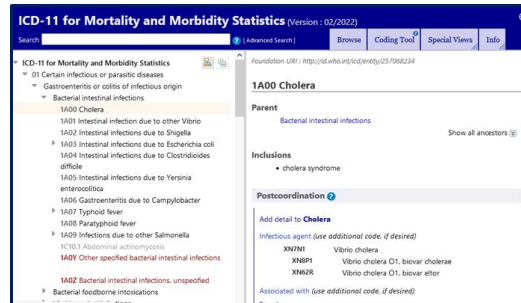
<https://icd.who.int/dev11/f/en>

死亡・疾病統計用分類（MMS）

ICD-11 for Mortality and Morbidity Statistics



- ファウンデーションから、**死亡・疾病統計用に切り出された分類**。
- ICD-10からの統計的な継続性等も考慮して章の構成が決定されている。
- 統計を目的とした分類であるため、相互排他性を有する。
 - ※一つの疾病概念は、分類内の一つの場所にしか存在せず、二重計上は発生しない（例：肺癌は、新生物に分類される）
- 統計での使用が想定される、**時点を固定した公表版**のほか、日々更新されるメンテナンス版がある。



- 約3万5千の分類項目
- 分類項目には**コード**（例：1A00）がつく

<https://icd.who.int/browse11/l-m/en>

ICD-11の用語の和訳作業について

- 日本医学会及び日本歯科医学会の協力の下、関係学会各位に用語の和訳に関する意見照会を実施
- 各版の検証及び移行作業と併行して、関係学会各位により提出された和訳案の誤植及び全体の整合等による確認・修正作業等を行ってきたところ
- 現在、ICD-11の分類の表記に用いる用語の和訳案について、2022年2月版をベースに日本医学会及び日本歯科医学会を通じて、最終調整を行っている
- ICD-11の分類の表記に用いる用語の和訳案について、最終調整の結果を踏まえ、1用語につき1つ設定する見込みであり、関係学会各位に最終確認との位置付けで照会依頼を行い、確定に向けた工程を進めていく

ICD-11の分類の表記に用いる用語について

ICD-11の分類の表記に用いる用語の和訳案について、1用語につき1つ設定する見込みであり、誤植及び全体の整合等の確認・修正作業※1を行い、現在、最終調整を行っている。設定された和訳の使用イメージについて、現行の疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）を用いて示すと、以下の通り※2となる。

※1 和訳案の修正例（赤字：修正箇所）

○誤植

（修正前）	（修正後）
血症版	血小板
又ば	又は

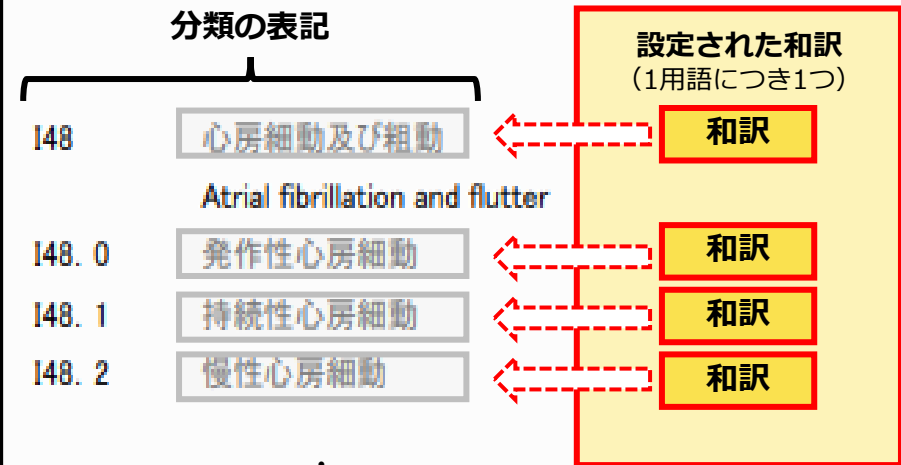
○同一フレーズの統一

（修正前）	
生殖器又は月経周期を伴う女性骨盤痛	
生殖器又は月経周期に関連したその他の明示された女性骨盤痛	
生殖器又は月経周期に関連した女性骨盤痛、詳細不明	
（修正後）	
生殖器又は月経周期に関連した女性骨盤痛	
生殖器又は月経周期に関連したその他の明示された女性骨盤痛	
生殖器又は月経周期に関連した女性骨盤痛、詳細不明	

○全体の整合

（修正前）	（修正後）
感染症の後遺症	感染症の後遺症
1G80 結核後遺症	1G80 結核の後遺症
1G81 トラコーマの後遺症	1G80 トラコーマの後遺症
1G82 ハンセン病の後遺症	1G80 ハンセン病の後遺症
1G83 急性灰白髄炎の後遺症	1G80 急性灰白髄炎の後遺症
1G84 ウイルス性脳炎の後遺症	1G80 ウイルス性脳炎の後遺症
1G85 ジフテリアの後遺症	1G80 ジフテリアの後遺症

※2 設定された和訳の使用イメージ



出典：

疾病、傷害及び死因の統計分類 ICD-10（2013年版）準拠
内容例示表 第9章 循環器系の疾患(I00-I99) より一部抜粋
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/dl/naiyou09.pdf>)